

奇才が世に送り出した スペシャル・マスタング!



激突!!
スペシャル・マスタング3台
Mustang BOSS
Shelby GT500
Saleen S281

激突!!
スペシャル・マスタング3台
Mustang BOSS302
Shelby GT500
Saleen S281

三 者三様とは、まさにこのことを言うのだと乗り比べてつくづく思った。シエルビーとBOSS302は2012年モデル。一方サリーンは2006年ベースだから少々割り引いて考える必要があると思っていたら、どっこい、そんな必要はまるでなかった。まずサリーンである。かなり強化してあると予想していた足回りは、実は丁度良いレベル。果たしてそれがヘタリによってもたらされたものであるか否かは、短い試乗時間で把握することはできなかったが、もともと当時のマスタングはボディ剛性そのものがそれほど高くなかったから各部のきしみ音などは半ば常識。そこから考えると充分シャキッとしたものと感じられた。1.5リヤルの加速感も凄まじい。さすがに低速から効くスーパーチャージャーの威力は絶大で、アクセルワークには気を使うほどだった。

一方、同じスーパーチャージャーでもシエルビーのそれはだいぶ異なり、回していくに従ってパワーを増していく。だから、ある意味ではNA感覚で乗れるスーパーチャージャーである。サリーンがATであったのに対し、こちらはマニュアルだから本気で楽しむにはシエルビーの方が良いだろうが、クラッチはそれなりに重い。一方でこのクルマは唯一のコンパイルだったため、その分の楽しさも倍加されたように思えた。550hpを楽しむためには回しにくいかなとダメだ。

それぞれ異なるキャラクターを持つ 魅惑の3台!

モデル	BOSS302	S281	GT500
寸法			
ホイールベース(mm)	2720	2720	2720
全長(mm)	4778	4803	4780
全幅(mm)	1877	1880	1877
全高(mm)	1400	1422	1392
トレッド前(mm)	1572	1623	1572
トレッド後(mm)	1588	1595	1588
エンジン			
タイプ	5.0L V8 DOHC	4.6L V8 SOHC	5.8L V8 DOHC-SC
最高出力(hp@rpm)	444@7400	330@5200	662@6500
最大トルク(lbf@rpm)	380@4500	340@4500	631@4000
ミッション			
タイプ	6MT	5MT/5AT	6MT
サスペンション			
フロント	マクファーソンストラット	マクファーソンストラット	マクファーソンストラット
リア	ライブアクスル	ライブアクスル	ライブアクスル

SALEEN S281

マスタングをコンプリートでチューニング、あるいはカスタマイズする多くの会社の中でも、レースで有名なラウシュとともにメジャーなのがサリーン。アメリカ大手のフォード・ディーラーでは、これら会社の製作したクルマを新車として販売しているほど。日本でも一時期正規代理店があったので、ご存知の方も多だろう。

EMという言葉がある。一般的には他社の製品に自社の製品を付加する、もしくは取り替えて、自社製品として販売するメーカーを指す。自動車業界において、よくチューナーという言葉を使うが、チューナーは単に他社製品に自社の製品を加えて他社ブランドのまま販売するものを指し、いわゆるOEMブランドとは明確に異なる。サリーンはOEMの資格を与えられた、最後のアメリカン・ブランドでもあるのだ。それがマスタングをベースとしながらもサリーンを名乗る所以であり、高い独自性を持ったモデルとして認知される大きな理由でというわけである。

S281スーパーチャージャーは、その端緒を4世代目のマスタングに発するが、今回試乗したモデルは5世代目。つまりS281としては2代目のモデルで

ある。その心臓部はサリーン・シリーズVIのツインスクルー・スーパーチャージャーと、2ステージのウォーター・エアインタークーラーを装備したもので、4.6L 3バルブSOHCユニットをベースにする。この2世代目では最高出力を330hpとしている。外観で特徴的なのは、エクステンドされたリア部分。そこに独自のテールライトとスポイラーを装着している。一方で、内装はダッシュ上面の中央にデュアル・ゲージクラスターを装備している点がこのクルマの特徴。もちろんシートもサリーンロゴが入るオリジナルである。足回りは、前後ともサリーンのショック並びにコイルスプリングに変更され強化されている。余談ながらフロントバンパーに入る数字は、シリアルナンバーだという。



1. 3台の中ではいちばん古い、マイナーチェンジ前の厚ぼったいフロント・セクション。パイパー部分にはシリアルが入る。2. 7本スポークのアルミホイールに組み合わせられるのは275/35ZR20インチ・タイヤ。つまり3台の中で最大。3. 3台の中では最もハデに飾られたサイド・スカート。インテークも装備されている。4. ほとんど作り直されたリア・セクション。このため全長が伸びている。5. エンジンは4.3L V8にスーパーチャージャーを組み合わせたもの。最高出力は330hp。6. シートはボルスターもしっかりしていて、GT500よりスポーティなイメージを醸し出す。7. スーパーチャージャーを搭載するだけに、ダッシュセンターに2連の補助メーターを装備。あとはエンブレム以外、目立った変更点はない。

